

ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区 広報誌
第30号
2020年(令和2年)
2月19日
組織拡充委員会

登録審査会 …来年度の各団登録を審査…

2月11日(祝)、杉並2団本部の築地本願寺和田堀廟所蓮華の間で、あすなる地区の登録審査会が開催されました。登録審査会では、各団の登録担当者が来年度の継続登録に必要な書類を持参し、事務長、進歩、地区コミッショナー、会計、組織拡充などの担当別に、登録内容の審査や加盟登録料の確認などが行われました。



新春リーダーの集い …世界ジャンボリーの報告…

登録審査会の終了後、和田堀廟所の本堂で「新春リーダーの集い」が開催されました。

第1部として、昨年夏にアメリカで開催された第24回世界スカウトジャンボリーに参加したあすなる地区各団のスカウトの報告会がおこなわれました。

報告会は杉並5団ローバー隊の関戸大輔さんの司会で、中村泰葉(杉並3団)、相澤岳琉(杉並9団)、木村恒陽(中野11団)、大澤 健(杉並13)、杉本 慈(杉並9団)の皆さんから、スライドを使いながら活動の様子、国際交流の楽しさなどの報告があり、質問も寄せられました。

中村泰葉さんは参加による成果は何かとの質問について、英語はあまり自信がなかったものの、参加中は英語で会話する機会が多かったことから、喋ることの恥ずかしさが次第になくなり、自信になったこと、帰国後も知り合った外国のスカウトとビデオ電話で交流している、との報告がありました。

杉本 慈さんは、世界ジャンボリーは日本ジャンボリーと比べて、参加スカウトが自由に行動できる面が大きいものの、楽しむことにも個人の責任が強まることを感じたこと、また、外国スカウトとのキャンプで、日本人は間違いを恐れて喋らないことが多いが、喋らなければ何を考えているか分からない。言葉よりも気持ちが大切で、それぞれの違いを知る努力が必要であり、違いを認めることが交流の鍵であること。相手を知ろうとする気持ちが、より深い交流につながる、と感想を述べました。



中村泰葉さん



相澤岳琉さん



杉本 慈さん



第2部は会場を再度蓮華の間に移して、杉並区児童青少年課の土田課長をはじめ、各団の指導者、育成会員、保護者が参加した懇親会が開催されました。

ビンゴゲームでは、島田野営行事委員長から番号が読み上げられるたびに、歓声やため息が交じり合いました。

また、団紹介では各団の指導者が勢揃いして、代表が団の特色などを紹介し、スライドも上映しながら活動の状況を報告した団もありました。



隼スカウト章の伝達

令和元年12月21日(土)開催の地区委員会に先立ち、杉並3団ベンチャー隊の中村泰葉さんに隼スカウト章が伝達されました。

中村さんは隼スカウト章の取得にあたり、那須野営場での移動キャンプのほか、特別養護老人ホームすぎなみ正吉苑での夏祭りではアイスクリームの販売を手伝いましたが、あらかじめヘルパーさんから老人や障害を持った方の普段のみなさんの様子や接し方を聞いた上で接したことで、気持ちに寄り添った奉仕活動の経験をしました。



老人ホームの夏祭りの奉仕



佐藤地区委員長より隼スカウト章の伝達



富士スカウト章記念品の授与

1月23日(木)開催の地区委員会に先立ち、杉並12団ベンチャー隊の村上智基さんに富士スカウト章記念品のバックルが授与されました。

村上さんは富士スカウト章のプロジェクトとして、プロが潜るような高度な技術が必要な水深40mの世界を目指して、スキューバダイビングを体験しながら、資格取得に向けて努力してきました。



佐藤地区委員長よりバックルの授与



下地地区コミッショナーより弥栄の祝声



WB研修所めざして事前課題研修会

2月15日(土)、ウッドバッジ研修所事前課題研修会が阿佐谷地域区民センターで開催され、研修所の参加を予定している各団の指導者が集まり、沼上トレーニング委員長より、WB研修所の参加に必要な注意事項、申込書類の提出方法などの話がありました。

また、参加者はカブとボーイの担当コミッショナーやトレーナーの個別支援を受けながら、研修所参加のための事前課題への取り組み方などの研修を受けました。



パインウッドダービー …どの車が最速？…

1月19日(日)、パインウッドダービーのあすなろ地区予選がなかのZEROホールで開催され、中野5団と8団、杉並11団と13団のカブスカウトが自慢の手作りの愛車を持って参加しました。

レースは公平を期すため、参加者の車は受付で規定通りの長さ、車高、車間距離、重さに収まっているか車検を受け、参加者は車検の後は車に触れることはできません。

スタートラインに4台の車が並ぶと、車を作ったスカウト名が紹介され、司会のリーダーの「レディ・ゴー！」の元気な掛け声とともに車がレーンを疾走して、順位とタイムがスクリーンに映し出されます。レースは各車ともレーンを変えて4回挑戦した平均タイムによって、うさぎ、しか、くま別に、指導者や保護者も“アンリミテッド”として順位がつき、タイムとは別に、車のデザインの審査もありました。

レースが終わってから、レース結果を集計するまでのあいだは屋外に出て、お互いに名前を確認しながら、全員があいうえお順や生年月日順に並ぶゲームなどを行い、交流を深めました。

閉会式で結果が発表されて、上位者の表彰があり、参加賞が配布されました。



車検前の車の調整



規定通りの車かチェック



自慢の愛車です



開会式



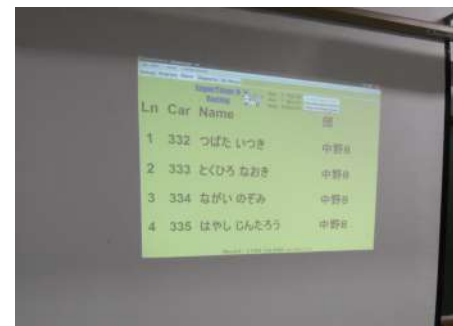
レースの開始



どの車が速い？



スタートにセットされた車



順位、タイムはすぐに表示



順番を待つ各車



デザイン賞の各車



ダービーのあと、庭で全員のゲーム



表彰式

パインウッドダービーあすなる地区予選で、各クラスで成績が1位、2位、3位までの成績上位者と、各クラスの参加者上位の25%の成績上位のスカウト、および組対抗で成績上位のカブ隊の各組は、2月16日(日)、豊島区駒込の本郷学園で開催された東京連盟のパインウッドダービー大会に、あすなる地区の代表として、出場することになりました。



【東京大会に出場の上位入賞者】

- うさぎ部門: 1位 佐藤凌介(杉13)、2位 植田琳太郎(杉11)、3位 佐藤応介(杉13)、森旅人(杉11) 4名
- しか部門: 1位 及川瑛大(杉13)、2位 津端樹(中8)、3位 牛久元(杉11)、神力丈(杉13)、松本実緒(中8)、永井希実(中8)、古城和樹(中8)、杉村ゆき(中8)、岡原ひより(中8) 9名
- くま部門: 1位 藤原滉矢(杉11)、2位 小野凜空(杉13)、3位 黒岩恒晴(中5) 3名
- アンリミテッド部門: 1位 生島孝一(杉13)、2位 稲葉順正(杉13)、3位 森美保子(杉11)、田邊妙子(杉13) 4名
- 組対抗部門: 1位 杉並13団 1組、2位 中野5団 1組

【デザイン賞】

- うさぎ部門: 梅原実来(杉11)、しか部門: 米田真恵良(杉11)、くま部門: 高輪勇成(杉13)
- アンリミテッド部門: 工藤信二(杉11)

東京連盟パインウッドダービーでも 上位入賞

2月16日(日)、東京連盟パインウッドダービーが豊島区駒込の本郷学園で開催され、各地区代表のカブスカウトとともに、あすなる地区予選の上位優勝者が参加し、スピードを競う熱戦が繰り広げられました。

東京連盟パインウッドダービーも、地区予選と同じルールで、各部門別に全レーンを走行して平均タイムを競い、スクリーンに成績が映し出されました。

東京連盟パインウッドダービーでは、あすなる地区代表の以下の方が上位に入賞しました。

- アンリミテッド部門: 2位 杉並13団 生島孝一
- 組対抗部門: 3位 杉並13団 1組



あすなる地区の出場者



組対抗3位の杉並13団1組



アンリ部門2位生島(左端)

パインウッドダービーへのお誘い

カブ部門担当の嶋崎地区副コミッショナーは、「パインウッドダービーの参加は、レースカーを作成することの楽しさだけでなく、丹精をこめて作ったレースカーのタイムを仲間と競うことの楽しさや、より早く走るように、車の形や重さを考えて調整するなど、工夫して進歩することにつながり、参加したスカウトや支援した家族にとっても、思い出に残るイベントになります。

地区のパインウッドダービーに、地区内の多くのカブ隊の参加をお待ちしています」とのことです。



ボウリングと初詣

中野8団 ビーバー隊長 綾田 雄公

1月5日(日)、中野8団のビーバー隊とカブ隊は合同で「新年初顔合わせ」プログラムを行いました。

今年の「初顔合わせ」は3年に一度のボウリングと初詣で、午前中に中野サンプラザボウルでボウリング大会があり、ビーバーと保護者、カブ、カブの保護者、リーダーの混成グループのチーム対抗で、優勝を目指してゲームが開始されました。

ボウリングは初めてのスカウトも何人かいるので、ボールが重すぎて投げられないビーバーにはボールを載せて転がせる「ボウリング滑り台」の使用可で、ビーバーとカブにはガーターレーンにボールが落ちない「ノンガーターレーン」で参加しました。

ボウリングのボールは、ねらい通りに転がってくれず、スカウトたちはピンに当たるまでハラハラドキドキしながら「当たりますように！」と見守っていました。

普段は一緒に活動をしないうビーバーとカブのメンバーでしたが、ボールがピンに当たったとき、ストライクのとき、スペアが出たときなどは一緒に喜び、ハイタッチする姿が微笑ましく、すっかりチームで溶け込んだ様子が見られました。

後半は、新井薬師の梅照院まで歩いて、初詣です。入口でお作法を学んでから、スカウトもみんなで並んで、いつも元気な子たちも、一人ひとりが神妙に願い事をもって手を合わせていました。

ビーバー隊長は「活動が活発に行われるよう、スカウトが一人でも多く増えますように」と、願ってきました。

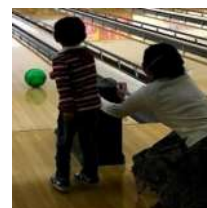
お寺の裏の新井薬師公園でお昼を食べた後、いよいよ表彰式。今回の個人総合優勝は、2ゲームで計287点のカブ隊長がもっていきました。

スカウトの上位は220点のカブスカウトで、200点超えのスカウトも数名出ました！ ビーバーの最高点は182点！

表彰式では部門ごとに上位3名にスカウトグッズが、上位のグループは豪華なお菓子の賞品をゲットしました。

その後、みんなでお待ちかねのゲーム。ネズミ年にちなんで「ねことねずみ」と「しっぽとり」をしました。ビーバースカウトも果敢にカブスカウトのしっぽを取ろうと追いかけていました。

今年の中野8団の活動は各隊のモットーのもと、「いつも元気に」、「なかよく」活動がスタートしました。



杉並3団と杉並5団で合同舎営

杉並5団ボーイ隊長 森 宇宙

令和元年12月21日(土)から翌日にかけて、杉並3団と杉並5団のボーイ隊・ベンチャー隊と、5団カブ隊月の輪を加えたスカウト28名が集結し、カトリック高円寺教会で合同舎営を開催しました。

高円寺教会での舎営は、5団ボーイ隊でここ数年の恒例となっています。そこへ17NSJ以降に交流が増えた杉並3団も2年連続で参加し、共に令和元年の活動を締めくくりました。

舎営ではセレモニーも含め、活動の運営をスカウトに委ねています。そのため、スカウトは11月に合同会議を開催し、プログラムや献立・役割分担などを計画し、舎営に臨みました。

セレモニーの後には公園で「しっぽ取り」などのゲームに興じ、夕方からは食事の準備を開始して、夕食は手巻き寿司、ローストビーフ、プリンが予定でしたが、食材買い出しのミスもあり、ローストビーフの肉はサイコロステーキに変更となり、プリンは固まりきらず、翌朝へ持ち越しでした…。

計画通りにいかないこともありましたが、スカウトたちは騒々しい程の賑やかさでした。舎営の途中で「隼スカウト章」の伝達を受けに行った3団ベンチャー隊のスカウトをサプライズで祝福し、5団有志スカウトによる「オタ芸」の披露や、リーダー扮するサンタ&トナカイから罰ゲーム混じりのプレゼントなど、計画外のイベントも大いに楽しみました。

もちろん楽しむだけではありません。就寝前のグリンバー会議で一日を振り返り、翌朝には教会ミサへの参加やスカウトタウンも実施。また、3月の合同春キャンプに向けての企画会議も開催されました。

教会での舎営は、遅参・早退などの部分参加がしやすい利点があります。実際、塾や部活などの合間で短時間だけ参加するスカウトもいて、この合同舎営を楽しみにしている様子が感じ取れました。

プログラムの中心には遊び要素が中心でしたが、スカウト同士が積極的に交流して盛り上がった合同舎営。切磋琢磨し合うスカウト仲間として、本年の活躍も期待しています！



杉並花笠祭りに出店

杉並2団

令和元年12月14日(土)、大宮八幡宮で開催された毎年恒例の初冬の風物詩、杉並花笠祭りに杉並2団が出店しました。参道の両脇には衣料品や食料品などの露店が並び、山形県の農産物や特産品の販売、山形名物のいも煮などの振る舞いのほか、にぎやかな花笠踊りのパレードの奉納もあり、大勢の方で賑わいました。

参道に設けられた杉並2団のテントでは、綿あめ、スーパーボールやヨーヨーすくい、型抜きなどが子供たちに人気でした。

型抜きは板状の菓자에描かれた動物や星、桜などの型を針先を使って割れないように、慎重にくり抜きますが、上手にくり抜いた子どもには賞品として、色とりどりの毛糸などで編んだり、小枝を色鉛筆の形にした、杉並2団特製の手作りのストラップが渡されました。



元気よく太鼓の演奏



参道に並ぶ多くのテント



杉並2団のテント



スーパーボール、ヨーヨーすくい



好評の綿あめ



花笠踊りのパレード



割れないよう慎重に針先で型抜き



手作りの参加賞のストラップや小枝の色鉛筆ストラップ



団立の街をめぐる「団ボリー」

杉並12団

令和元年12月8日(日)、杉並12団では毎年12月に全隊が参加する恒例の「団ボリー」を開催しました。

スタートはJR国立駅で、大学通りの紅葉した広い並木を歩き、一橋大学西キャンパスでは建物や柱などに刻まれた不思議な生き物や登録文化財の建物を探す課題に挑戦しました。

一橋大学からチームごとに学問の神様の谷保天満宮に向かい、学力の向上を祈願して、まつられている動物さがしや牛のいわれの課題を済ませたあとは、谷保天満宮や周辺のハケ(段丘崖)から湧き出す清流に沿って、田や畑の続く田園風景の中を歩き、城山公園の芝生広場に出て昼食にしました。

近くにある茅葺きの古民家や、くにとち郷土資料館を見学しながら、ふたたび小魚やザリガニの姿も見える清流沿いに、ママ下湧水や近くの公園の古墳跡をめぐり、矢川駅に向かいました。



一橋大学にひそむ不思議な生き物と谷保天満宮の牛



一橋大学兼松講堂前



各隊スカウトを3チームに編成



座標で指示された次の場所はどこかな？



谷保天満宮はクラシックカー祭り中



道沿いに続く清流と田畑



城山公園に生息する動物のキムスゲーム



城山公園の昼食場所を目指すチーム



城山公園の芝生で昼食



茅葺き屋根の古民家は見学自由



川の流りが合流する矢川おんだし



池と小川に挟まれた道を進みました



清水が豊かに湧き出すママ下湧水

ハットはスマートに！

制服を正しく、スマートに身につけることは、スカウトとともにリーダーにも大切です、リーダーハットもスカウトのお手本になるようスマートに着用したいものです。

ハットのつばは水平に、目深にかぶるのが正しいかぶり方で、つばを上げたり、アミダにかぶるのはおすすめできません。



帽章とハットベルト

日本連盟の教育規程では、制服などの着用方法を定めており、指導者の帽章については図1のように「左横の帽帯（ベルト）上部、ハット本体に帽章をつける」としているため、ハットベルトの合せ目は規程通り左横にし、図2の通り、帽章の下部がベルトに触れるくらいの位置に、ハット本体に穴を開けてつけます。

ベルトの穴には、帽章をつけないようにします。

ベルトは活動中に回転したり、抜け落ちたりすることもあるため、図3のように紐をベルトに通して押さえたりはせず、ベルトの下部とハット本体を目立たないように糸で縫いつけてベルトを固定するなど、ベルトまわりはスッキリさせたいものです。

紐の結び方を工夫

規程にはハットの紐の結び方の指定はありませんが、ハットの紐は顎にかけるものではなく、輪の部分を図4のように後頭部に引っ掛けるのが正しい着用の仕方です。

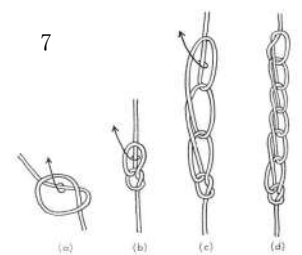
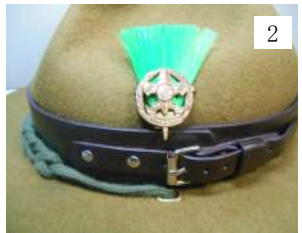
紐が長い場合、後頭部から垂れ下がったりすることのないよう、ハット前面の結び目で長さを調整します。

ハットの前面の紐は結び方を自分なりに工夫して、キラリと個性を出すことができます。

図5はハットの前面で紐を“本結び”にして、余った紐をクルクル巻き、端は先端止めにしています。

図6は“蝶結び”にした紐の端がハットのつばから出ないように、端をひとひねりした輪に通して見栄えも良くしており、紐をハット本体に糸で縫いつけておけば、紐がズレあがったりせずに落ち着きます。

また、図7の編み方で、図8の“くさり編み”にすることもできます。



ハットホルダー

ハットは使用とともにつばが下がったり、形が少しずつ変形することもあります。いつもまっすぐな状態で使用するためには、保管方法が大切です。

このためハットを保管する時は、つばが曲がらないよう、スカウトショップにある図9のハットホルダーを使用することができます。

ハットホルダーは、隊や班の集会の時に、ハットの大きさに合わせ、ベニア板やプラスチックダンボールなどを切り抜いて、ニスや塗料を塗って仕上げれば、お気に入りの“マイ・ハットホルダー”が出来上がります。

写真10のハットホルダーは保管用のため、取っ手や切り取りが面倒なU字型のカーブはつけず、ハットの挿入口にも取り外しのできるカバーをつけ、クリップで挟んでいます。

写真11は厚紙をつばと同じ大きさに切り取ってクリップで挟んでおり、雨には弱いですが、軽量のためトートバッグなどに入れて手軽に携行できます。

ハットの山の形に合わせて、図12のように厚紙を組み合わせた型をハットに挿入しておけば、ハットの形が崩れません。

